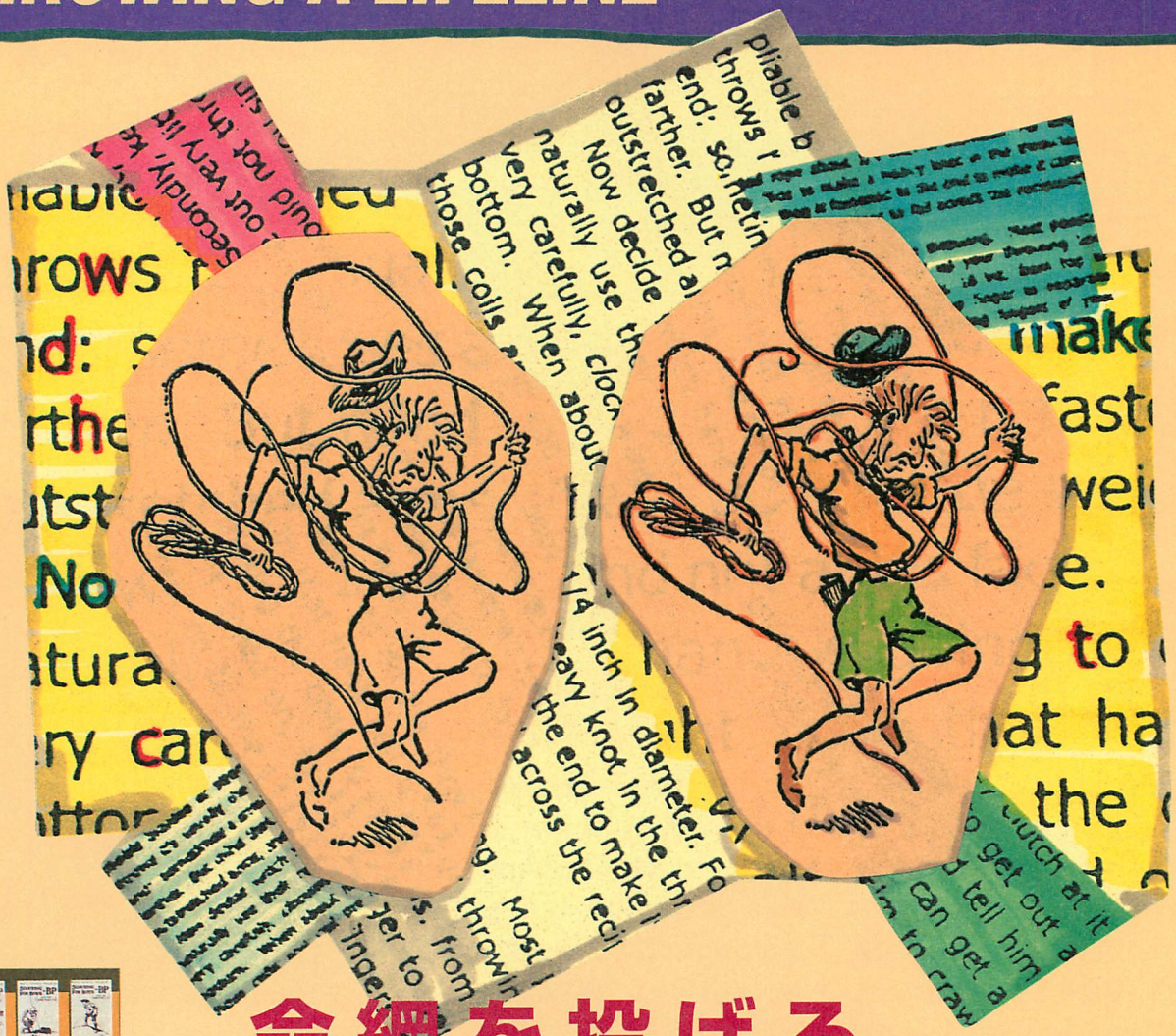
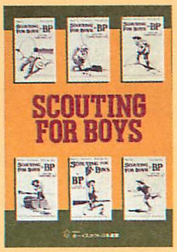
THROWING A LIFELINE



命綱を投げる



ここで紹介したお話しは「スカウティング フォア ボーイズ」に掲載されているものです。(日本語版 379頁)
このような緊急な場面に遭遇した時、スカウトとしてどのような心構えが必要か、話し合ってみよう。

まちがいさがし

上のイラストの左側の人物は「命綱を自分の体にからまないように上手に投げるには練習がいる」ことを示すためにB-Pが描いたものだ。これを原画として着色したのが右側のイラストだが、その際5か所の間違いを犯してしまった。全て見つけてほしい。

溺れた人を救う時に、飛び込んで2人とも引き上げられるようなことになるより、その人の手の届くところにロープを投げてやる方がずっと実際は役に立つ場合が多い。

投げたり引き寄せたりするのにちょうど良い綱の長さは42フィートだ。もし特別に投げ綱を作ろうとするなら、直径1/4インチくらいの上質の、しなやかな編んだロープか、よったロープを使わなければいけない。遠くへ届かせるには、ロープの先に重い結び目を作るのが普通のやり方だ。

さて、どちらの手でロープを投げるか決めなければならない。たいていの人は、もちろん右手を使う。その方の手に、投げ綱を例えば上下の幅18インチくらいの輪にして、丁寧に時計回りに巻いていく。半分ほど巻いたら、指を1本立てて仕切り、あとは残りの指にかけて巻く。

ロープを巻き終わったら、左手の中指以下の3本の指でロープの端をしっかり握るか、なお確かにするには、端に手首がちょうど入る輪を作って、投げた時ロープが抜けないようにする。次にあとで巻いた半分の輪を、右手から左手の親指と人差し指で持ち替える。これで両手にそれぞれ輪を持っていることになる。

右手の輪をまず投げ、その後すぐに左手の輪を投げるのだが、綱の端を手から離してはいけない。このようにして投げると、綱はもつれないし、全部の綱をまっすぐに投げられるから、一番遠くまで届く。1つの輪にして投げると、たいていは輪がうまくほぐれないので、その結果遠くへ届かない。

投げ方は下手投げでも上手投げでも構わない。上手投げの方が良いやり方で、ことに土手や壁のような障害物の向こうに投げる時や火事の時、上の階にいる人に向かって投げる時には、まずこれでなければうまくいかない。